

# 校長先生の初恋物語

## 第41話 足長君の裏切り



遠足の目的地、すすき海岸に着きました。いにお弁当タイムです。今日一番のお楽しみです。お弁当を一番最初に広げたのは、きんに君。だいたいお弁当の時はきんに君が一番早く食べ始めるんです。「うまいだチョー。」と言いながら、おにぎりを食べていました。その近くでは、よしこさんとダンブさんがなかよくお茶を飲んでいました。よしこさんと目が合いました。よしこさんは、にっこり笑って、お弁当のふたを開けると、中のハンバーグをとっくんに見せてくれました。やっぱりハンバーグは、ハートの形をしていました。もうすぐ、あの手作りハンバーグは、とっくんのものになるのです。

足長君をさがしました。足長君から、まずはハンバーグをもらわないといけません。足長君は、コージ君のとなりにすわり、おしゃれなことにフォークを使ってお弁当を食べていました。その食べているものは、ハンバーグでした。とてもおいしそうにハンバーグを食べていました。

「あれっ。どうして。なんで食べてんの。」とっくんは、目をこすってもう一度よく見ました。すると、足長君と目が合いました。足長君は、にやっと笑いました。「しまった。裏切りだ。足長君は、よしこさんのハンバーグをぼくが食べられないようにしたんだ。」

とっくんはあわてて足長君のところに走って行きました。



「ちょっと、足長君。ハンバーグをくれるって、言ったじゃない。」

「えっ、そんな約束したっけ。忘れてたよ。」

でたっ。足長君は完全にとぼけています。本当は足長君のたくらみなのに。

よしこさんを見ました。よしこさんは、お弁当箱を持って、とっくんの方に向かっていました。そして、とっくんの目の前まで来ると

「とっくん♥ ハンバーグ持ってきたよ♥ こうかんしょっ♥」

もう、何もかも、おしまいです。とっくんは、困った顔で、お弁当のふたをあけました。ハンバーグがないことをよしこさんに見せて、あやまるつもりでした。

お弁当のふたをあけたしゅん、とっくんの目が大きく開きました。なんと、あるのです。ハンバーグ。大きなハンバーグが一つ、お弁当の中に入っているのです。「そんなはずはない。お母さんはきのう買い物に行っていない。ハンバーグを作れるわけがないのに。」ハンバーグをじーっと見て、考えました。そして、はっとしました。

「まさか……。」

とっくんは、よしこさんに言いました。

「よしこさん、ごめんね。このハンバーグ、よしこさんにあげるわけにはいかないんだ。約束をやぶってごめん。」そして、とっくんは、あるはずのないなぞのハンバーグをがぶりと食べました。「やっぱり、そうだ……。」食べたしゅん間に、ハンバーグのなぞが分かりました。



## 次回予告

## なぞのハンバーグ

